

旭化成が23/3期業績予想を修正 ―格付への影響は限定的

以下は、旭化成株式会社（証券コード：3407）が減損損失の計上および23/3期業績予想の修正を発表した
ことについての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は3月8日に連結子会社のPolypore社（15年8月買収）ののれん等に関し、約1,850億円の減損損失を計上する見込みとなったことを発表した。これに伴い、23/3期の最終損益の予想も、従来の700億円の黒字から1,050億円の赤字に修正された。当社が手掛けるリチウムイオン電池用湿式セパレータ（ハイポア）は、順調に需要が拡大している。一方、環境対応車市場の動向や原料コストの高騰などから、Polypore社が手掛けるリチウムイオン電池用乾式セパレータおよび鉛蓄電池用セパレータの需要や収益は軟調に推移しており、同社の業績は買収時の計画を大きく下回る状況となっている。こうしたことから、当社では各事業の方針を明確化。これに伴い、ハイポア事業とPolypore事業はこれまでの一体運営から独立した運営に転換することとなり、資産グルーピングを解消することが減損処理の要因である。
- (2) 修正後の最終損益の赤字幅はやや大きく、財務基盤にも一定の悪影響が生じる。ただ、23/3期第3四半期末の自己資本は1.8兆円と、十分なリスク耐久力が確保されている。積極的な成長投資で有利子負債は近年、増加傾向となっているが、財務構成や債務償還能力に関し、現状、特段の懸念はない。また、事業基盤全体が損なわれる可能性も低いと考えられる。JCRでは、今回の発表による格付への影響は限定的と判断している。世界的な景気後退や原燃料価格の高値推移などで事業環境は厳しいが、社会のメガトレンドに沿った成長戦略の推進などで、早期に業績を成長軌道に戻していけるか注目していく。

（担当）殿村 成信・藤田 剛志

【参考】

発行体：旭化成株式会社

長期発行体格付：AA

見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等することは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル